



七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便りNo.5

令和7年 6月 2日(月)

編集・発行責任者 校長 池田敏典

E-mail e52@nagasaki-city.ed.jp

G-mail nijigaoka@gmail.com

魔法の言葉

以前読んだ、「魔法のこぼし」というタイトルの文章から記録していたものです。

…(前略)… 最近、子どもへのこぼしかけについて「これはとてもかなわない」と脱帽するこぼしに出会った。学校で保護者に話したり、家で子どもと接したりする際の参考になればと思い、紹介させていたたく。

芸能界で活躍されつつ大学院で学び、大学でも教えておられる方が子どもの頃、おばあちゃん(母方の祖母)がかけ続けてくれたという『魔法のこぼし』。それは、

「○○(名前)は良くなってきたね」「○○、前より良くなってきた」というものだ。

他の誰かと比べるものではない。その子が前よりも成長していることを褒め、しかもそれがまだ途上で、この先もっと伸びるんだよ、というまなざしを受ける。

テストで悪い点を取り、さすがに言われないうらさうと思った時も、

「良くなってきたね」…驚いて聞き返すと、

「気づいてないかい?○○はテストになれて緊張しなくなったんだよ」(略)

「だから、緊張しなくなった自分をまず褒めようね」

こういう人が身近にいてくれたら、子どもは頑張れる。…(後略)…



こんな『魔法のこぼし』を自然と言えるようになると、子どもの小さな頑張りや成長をおだやかに支えられるのだろうなあ…、自分の心も豊かになるのだろうなあ…。そんな思いをもちます。

人権意識と実践力

いつ頃でしたか(おそらく数十年前だったかと)、あるテレビ番組で次のような場面を放映していました。

子どもがすべり台から滑り降りてくる。ところが、一番下に来た時に、前につんのめって地面に顔から突っ込んでしまうのです。起き上がった子どもはすぐには泣きませんが、周りで家族が大笑いしているのを見た瞬間、大声をあげて泣き出し、母親に「笑っちゃダメ!」と大声で言うのです。

この子どもが泣いたのは、地面に顔をぶつけて痛かったからではなく、そんな自分の醜態を周りの人たちから笑われたという自尊心の痛み(心の傷の痛み)からです。

人間は、滑稽な状況を笑うだけでなく、あまりにも残酷な、あまりにも現実的なものをまともに見せつけられた時に反射的に笑ってしまう。そういう存在でもあるようです。

他人の痛みを我が事のように感じるということは、人間にとって大事なことではありますが、他人の痛みがかえっておかしくて仕方がないという、そんな非情な心の動きも人間にあります。

そうした非情な心の動きによって悲しい、つらい思いをしている子どもたち(大人も)が世の中にたくさんいるようです。喩えて言うならば、『いじめの木』だけではなく、『いじめの木の根』と言える事象もたくさんあるということです。

“いじめ”という言葉が先行してしまい、私たちは、日頃の生活の中にある大切な問題を見落としがちになっているのかもしれませんが、再度、一人一人が、自分の生活の在り方や人とのつきあい方を見つめ直していく必要があるでしょう。

本校では、「未来の虹が丘を担う『七色にかがやく子ども』の育成」を学校教育目標に掲げ、よりよい人間性を身に付け、主体的に、他と協働しながら生き抜く児童の育成を目指

しています。特に、七色のかがやきの一つ、「良い言葉でみんな仲良し」は、人を大切に考え、実践できる力が無いと実現できません。学校でも、人権意識とともに、実践力を高めるよう指導していかなければと強く思うところ

です(本校の「いじめ防止基本方針」を学校ホームページに挙げていますので、御確認いただければと思います)。御家庭におかれましても、「人を大切にすることはどういうことか」、お子さんに語ってあげてください。

